通し番号 3827

分類番号

13.56.22.03

(成果情報名)交雑種哺育牛に対するリサイクル牛乳給与方法の検討

[要約] 生後2~3週齢の交雑種(机スタイン種×黒毛和種)哺育牛を用いて、県内牛乳工場で回収されてきた牛乳に乳酸を添加(酸性牛乳)して哺乳する区(試験区)と当所産生乳を給与する区(対照区)に分け、90日齢まで給与試験を行ったところ、発育及び飼料摂取量において両区に差は認められなかった。また、回収牛乳をパックのまま保存し、保存温度を4 と20 で比較したところ、20 では9日間経過時から細菌数が増加した。給与した酸性乳は、室温で1週間程度保存したが、保存性、嗜好性に全く影響が見られなかった。回収した牛乳パックを開く器具による所要時間の差を見たところ、はさみよりカッターの方が早かった。

(実施機関・部名)畜産研究所・畜産工学部

連絡先 046-238-4056

[背景・ねらい]

本県において、牛乳工場では毎日返品などの牛乳が大量に処分されている。そこで生産性に影響を与えることなく、交雑種の哺乳の省力・低コスト化、更に牛乳工場での不要な牛乳のリサイクルが可能か検討した。。

[成果の内容・特徴]

1 発育成績

試験区、対照区に差はなく、良好な発育を示した。

- 2 飼料摂取量
- 4 2 日齢で離乳を行い人工乳を給与したが、両区の摂取量に差は見られなかった。乾草は、生後30日齢から飽食給与したが、両区とも摂取量のバラツキが大きかった。
 - 3 疾病発生率
 - 一部に軟便、下痢、発咳などが発生したが、両区に差は認められなかった。
 - 4 回収牛乳の保存性
- 4 では概ね問題がなかったが、20 では9~10日及び28日で細菌数が多いサンプルが出現した。
 - 5 酸性牛乳の保存性

乳酸添加直後にpH5.8まで低下し、更に24時間後にはpH4.7程度になり、保存性は高まるものと思われる。また、哺乳牛の嗜好性には全く影響が見られなかった。 「成果の活用面・留意点1

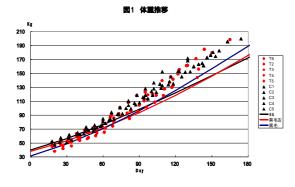
- 1 酸性化する有機酸として、ギ酸などの強酸を使うと牛乳が凝固するので留意が必要。
- 2 保存タンク・有機酸等の器材の他、牛乳工場へ自分で取りに行く手間が必要となる。

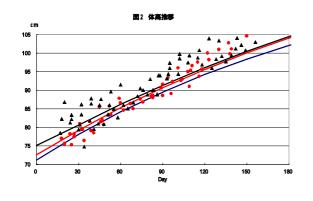
[具体的データ]

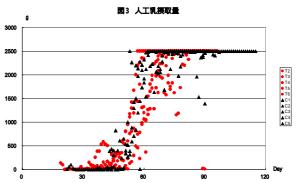
表1 哺乳スケジュール

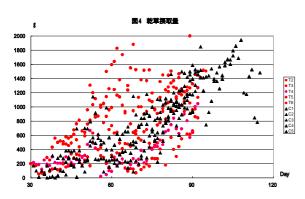
日齢	酸性牛乳又は生乳		人工乳	乾草	-t-
	朝	夕	人工乳	₹ /	水
導入日	0.0	2.5	0.0	0.0	0.0
14 ~ 21	2.5	2.5	0.3~0.5	0.0	自由飲水
22 ~ 28	2.5	2.5	0.5~1.0	0.0	
29 ~ 35	2.5	2.5	1.0	1.0	
36 ~ 42	2.5	2.5	1.0	1.0	
43 ~ 49	0.0	0.0	1.0	1.0	
50 ~ 90	0.0	0.0	2.5	飽食	

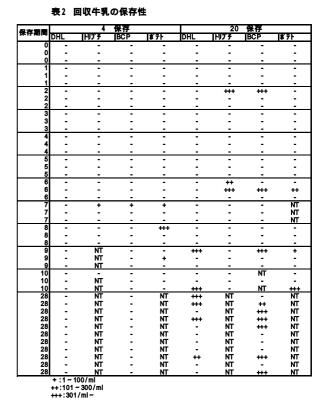
人工乳の給与量は目安であって、常時2.5Kgを上限に飽食 導入日を含め3日間は生菌剤を投与











[資料名]平成13年度試験研究成績書(繁殖工学・乳牛・肉牛・飼料作物)

[研究課題名]交雑種哺乳牛に対するリサイクル牛乳給与方法の検討

[研究期間]平成10~13年度

[研究者担当名]荒木尚登・久末修司・水宅清二・丹波義彰